

早稲田大学環境総合研究センター・ふくしま広野未来創造リサーチセンター

テーマ1:まちづくりと住民参加 テーマ4:1F 事故処理・廃炉と汚染水問題 準備会合

議事メモ

日時：2018年7月19日（木）15:00～18:00

会場：福島県広野町役場 201 会議室

記録：李 洸昊

出席者(敬称略)：

松岡 俊二	早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター長
	早稲田大学アジア太平洋研究科・教授
小松 和真	福島県広野町復興企画課・課長補佐
根本 賢仁	NPO 法人・広野わいわいプロジェクト・理事長
磯辺 吉彦	NPO 法人・広野わいわいプロジェクト・事務局長
菅波 香織	未来会議・事務局長・弁護士
南郷 市兵	福島県立ふたば未来学園高等学校・副校長
森口 祐一	東京大学大学院工学系研究科・教授
鯨岡 晋悟	福島県広野町復興企画課・係長

事務局

李 洸昊 　　ふくしま広野未来創造リサーチセンター事務局

*途中 15:30-15:50、遠藤広野町長との懇談を行なった。

1. テーマ1:「今、福島で取り組んでいること(まちづくりと住民参加)」:小松

テーマ1としては、以下の3点を議論の骨子としたい。

- ・ 誰が何をやるかの役割分担について、具体的な取り組み事例（例えば、南相馬市小高地区）から必要とされるニーズや課題解決策を探っていききたい。
- ・ 原子力災害被災地として、この地域に住むことや他地域から浜通り地域へ移住することの課題や魅力づくりのアイデアを提案していききたい。
- ・ 地域間交流や関係人口拡大などの取り組みから、広域的な協力体制やお互いのメリットを見つけていききたい。

南相馬市小高地区の具体的な取り組みの視察に行ったことがあるが、地域の活動に住民が積極的に参加し、活動をしていることは勉強になった。この点は、窪田先生メモの「いくつかの取り組み事例を学会で発表」の提案ともつながると考えられる。

広野町でも少し似ている活動はしているが、具体的な地域活動への取り組みではなく、公民館に旧集落の仲良しの人々が集まって楽しむような活動に留まっている。この観点から小高地区の取り組みから学ぶことも重要であると考えられる。

また、その他の窪田先生メモの「広域連携のあり方」「復興ツーリズムのあり方」「高校生のまちづくり」もふたば未来学園高校の三橋グループの話などにつながる部分が多いと考えられるため、今後もう少し考えたい。

7月26日（木）の運営会議までに、ふくしま学（楽）会でのテーマ1の全体的な流れとその中で考える論点2～3つを整理してほしい。

2. テーマ 4:「今、福島について知りたいこと(1F 事故処理・廃炉と汚染水問題)」:菅波・森口

この前 2F の廃炉も決まり、福島ではトリチウム水の処理が大きな問題となっている。そのため、トリチウム水の処理問題に焦点を当てたいと考えている。トリチウム水に関する情報の出し方や最終的な選択肢の考え方、合意形成のあり方、科学的影響・社会的影響の捉え方などを中心として考えていきたい。今後、ふたば未来学園高校の遠藤君が青森県六ヶ所村の視察や 7 月 28 日(土)に「高校生と考える廃炉座談会」も開催するため、そこでの考えや議論なども踏まえて、テーマ 4 の論点を整理したい。

地元でトリチウム水問題はホットイシューのため取り上げるのは良いと考えられるが、それをどのように取り上げるのかを考慮する必要がある。また、トリチウム水問題だけに絞るのはあまり良くなく、もう少し 1F 事故処理全体のプロセスや進め方を広く捉えた方がいいと考えられる。その上でどういう議論の進め方がいいのかを考慮する必要がある。

福島復興の中で 1F 事故処理・廃炉をどうするのかを中心にして、その中にトリチウム水問題を 1 つの問題として位置づけた方がいい。1F 事故処理・廃炉の全体のリスクは評価できないが、少なくとも把握できるリスクを評価した上で、どのような事故処理の仕方がいいのかを考える必要がある。

また、森口メモのように、「当事者は誰か。責任を持って決定する者が誰かと、決定に何らかの形(=パブコメ等も含む)で関与する主体は誰か?」ということも同時に考慮する必要がある。

7 月 26 日(木)の運営会議までに、ふくしま学(楽)会でのテーマ 4 の全体的な流れとその中で考える論点 2~3 つを整理してほしい。

以上